
行動変容WGの概要について

2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）

- 2010年の生物多様性条約第10回締約国会合（CBD COP10@愛知）の際に設置された産民官からなる**国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）**において普及啓発・発信を行っていたが、10月までにその設置期限を迎えた。
- その後継組織として11月から新たに**2030生物多様性枠組実現日本会議（Japan Conference for 2030 Global Biodiversity Framework）**を設置。
- UNDB-Jとして10年間活動してきた課題等を踏まえ、マルチステークホルダーの連携の場という従前の目的を維持しつつ、さらなる活動の活性化に向けて、下部組織を設けることとした。

<J-GBFの全体構造>

総会（※現行の委員会を継続） : 委員全員の参加

幹事会（継続）

**ビジネス
フォーラム（新）**

生物多様性に関するビジネス分野（企業等）への情報提供や関心向上に向けた**経済3団体**を中心とするフォーラム

**地域連携
フォーラム（新）**

生物多様性自治体ネットワーク等と連携し、自治体の現場の生物多様性への知見共有や具体的取組を促すフォーラム

**行動変容WG
（新）**

マルチステークホルダーによる、ナッジやポイント制度等を活用した、市民や企業等の行動変容を促す取組を議論・検討する会議体

➤ 下部組織を設け、主流化に向けた具体的取組を進める。

行動変容ワーキンググループの概要(1)

- 当面、専門的知見を有する学識者等や市民団体やユース団体を中心に、普及啓発に留まらない、具体的な行動変容のための取組を議論・検討する場とする。

(目的) (※設置要綱から)

- ・ ポスト2020生物多様性枠組等の国際目標や、関連する国内戦略等の達成等に向け、生物多様性の主流化のため、国民や企業等各セクターの具体的な行動変容のための取組を議論・検討し、その成果をとりまとめるものとする。

(検討の範囲)

- ・ 生物多様性の主流化（認識の向上）、国民や企業等を対象とした行動変容（例えば、消費者を対象とした場合、日々の暮らしへの訴求 等）に向けた議論・検討を実施する。
- ・ 具体的には、消費行動や生産行動、寄付行為などを通じた生物多様性保全に向けた個人や個社の取組を促すための仕組みやフレームワークを検討する。
- ・ 検討にあたっては、気候変動や循環経済、SDGs、エシカル、人権など相互補完性のある取組を参照する。また、ナッジやデジタル技術といった新たな知見も活用する。



- 当面は、UNDB-Jの中核的取組であった「**MY行動宣言**」や、**森里川海**といった既に実施されている**個人・団体向けのキャンペーン**について、**ナッジに着目した取組改善**を検討する。
- 上記の検討過程において、ナッジを通じた他の手法（寄付、消費等）へのウィング拡大も併せて検討する。

行動変容ワーキンググループの概要(2)

(体制・運営) (※設置要綱から)

- ・ **J-GBF委員**、及び事務局が指定する有識者 (**専門委員**) から構成される。
- ・ 座長を置き、座長が運営・進行を総括する。
- ・ 事務局は環境省とする。
- ・ 年数回の開催を継続的に実施する。



□ 専門委員 (※現時点 (50音順))

- ・ 久保 雄広 委員 国立環境研究所生物多様性領域 主任研究員
- ・ 藤木庄五郎 委員 (株)バイオーム 代表取締役

今後の進め方について（予定）

- 11月～ **J-GBFの設立**
 - ・設立（趣意、要綱の承認）

- 1月 **行動変容WG①←今回**
 - ・立ち上げ
 - ・ナッジについての報告
 - ・効果検証事業概要報告

- 3月（予定） **行動変容WG②**
 - ・効果検証事業結果報告
 - ・新MY行動宣言の検討 等

（R4年度内）

- 夏 **行動変容WG③**
 - ・ポスト2020生物多様性
枠組（GBF）報告
 - ・新MY行動宣言の検討 等

- 秋～ **行動変容WG④**
 - ・新MY行動宣言セット（予定）
 - ・新国家戦略等を踏まえた
新たな取組についての検討 等

<効果検証事業（R3）>

新手法のモデル的实施・効果
比較アンケート

概要報告

結果報告

報告書とりまとめ（年度末）

<効果検証事業等（R4はP）>

必要に応じて、効果検証やモ
デル事業等を実施

概要報告

中間報告

結果とりまとめ